

卵胎生魚の繁殖干涉

六甲アイランド高等学校 総合科学系21期16班



はじめに

- 雄のグッピーが雌のカダヤシと間違っ交尾して繁殖干涉を起こすことが琉球大学の研究で分かった。その研究では、雌のグッピーが雄のカダヤシと交尾することはなかった。その理由は解っていない。
- この研究結果からカダヤシの色彩がグッピーより地味なことから、雄の派手さが関係しているのではないかと考えた。
- また、同じ卵胎生魚であるプラティでも先行研究と同じような実験ができるのではないかと考えた。

今後の展望

1つ目のお見合い実験では、雄の派手さについて調べた。

2つ目の実験では、他の卵胎生魚でも先行研究と同じ実験ができるのか調べる。3~4か月後産まれた稚魚の数を数え、プラティでも繁殖干涉を起こすのか確かめる。

①お見合い実験

Method

- 全ての雌雄の組み合わせを一匹ずつ同じ水槽に入れる。
- お互いが1分間にどれだけ近づくか調べる。

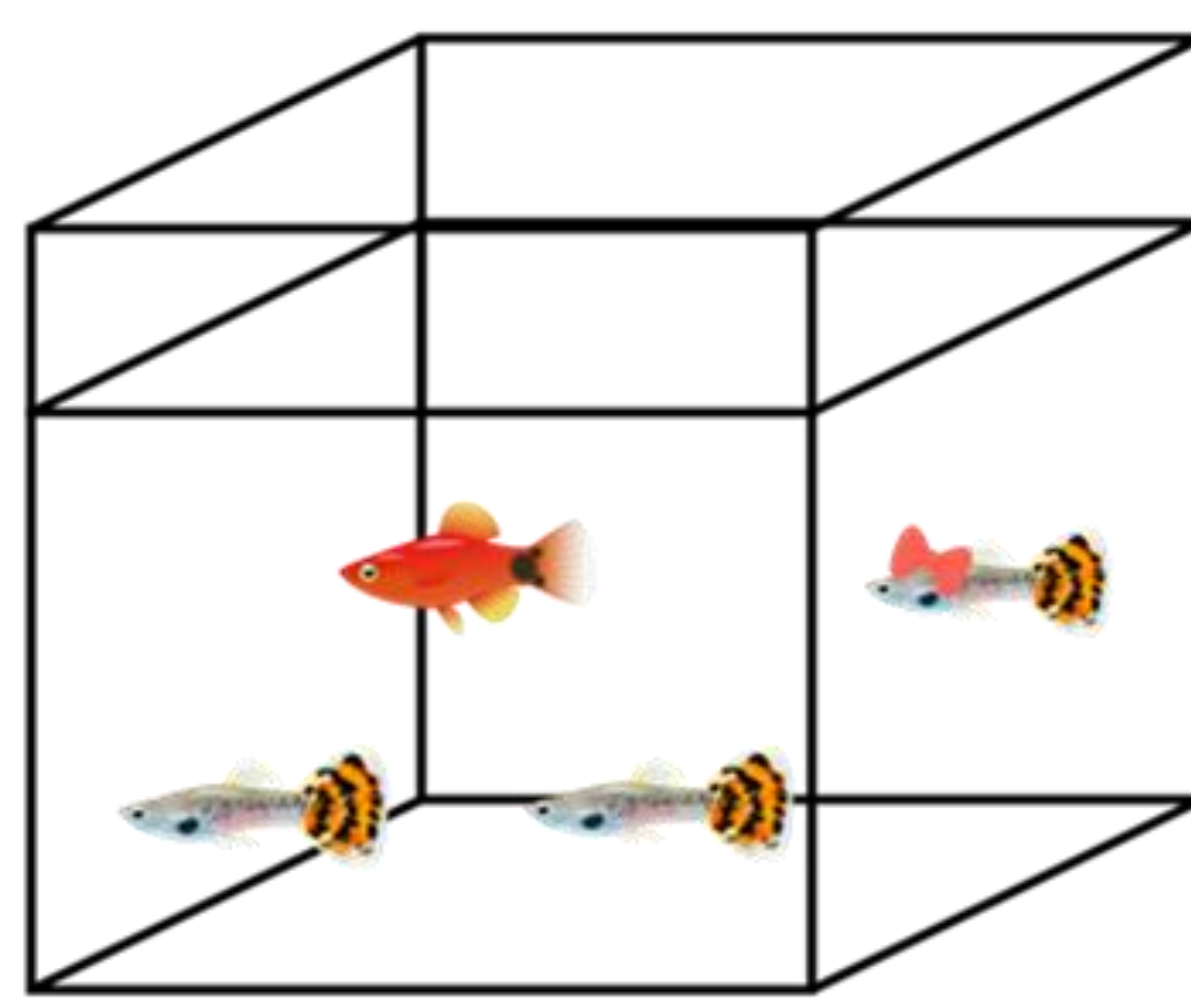
Result

それぞれ、同じ種類の組み合わせのときによく近づいた。違う種類の組み合わせのとき、入れてすぐは雄が雌に近づいたがだんだんと離れていった。

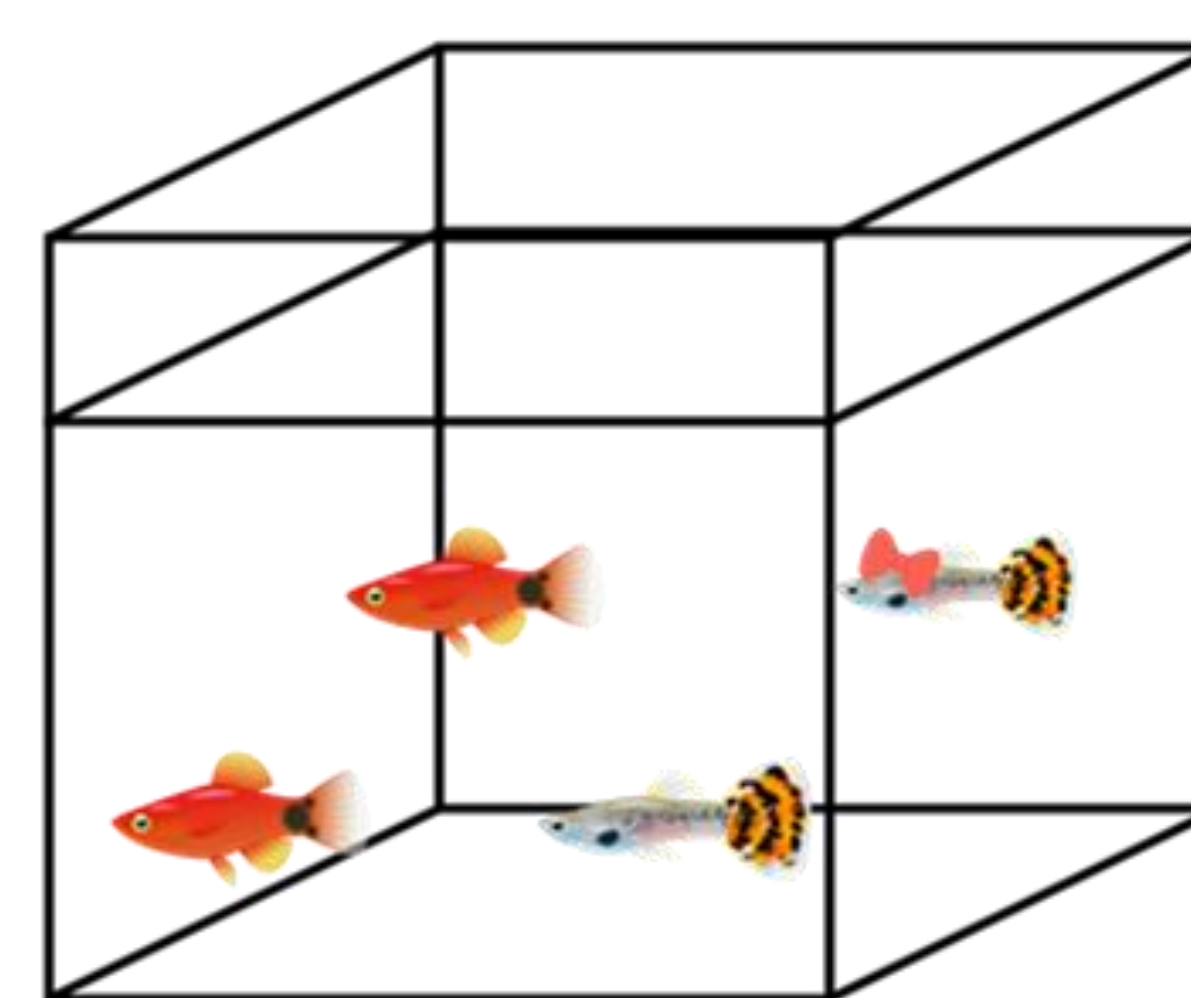
②繁殖干涉

Method

- グッピーの雌1匹に対してグッピーの雄を2匹、プラティの雄を1匹、計4匹を同じ水槽に入れる。(図1)
- グッピーの雌1匹に対してグッピーの雄を1匹、プラティの雄を2匹、計4匹を同じ水槽に入れる。(図2)
- 3か月後、それぞれの稚魚の数を数える。



(図1)



(図2)

Result

グッピーの数の多い(図1)の水槽だけ稚魚が産まれた。しかし、購入した時に雄と雌が一緒の袋に入れられて送られてきた。なので、既に交尾していて産まれた稚魚だということも考えられる。

Reference

琉球大学研究成果「カダヤシはグッピーに交尾され駆逐された」

<http://www.u-ryukyu.ac.jp/news/3763/>